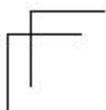
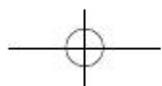
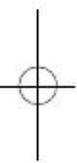
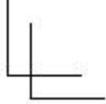
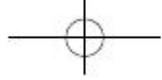


# 狐原遺跡

— 山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う発掘調査報告書 —

2019.3  
山梨県教育委員会





調査前風景（北東から）



完掘状況（北から）

## 狐原遺跡のあらまし

周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡は、山梨県笛吹市石和町に所在しています。本遺跡周辺の金川扇状地を中心に国分寺に関連する遺跡が高密集し、主に弥生時代から継続的な土地利用がなされてきた地域であることが知られています。平成6年には、旧県立山梨園芸高等学校の農耕用車教習所建設工事に伴って約8,000㎡の広域な発掘調査が行われ、竪穴住居跡15軒、土坑25基、墓壙2基、溝1条、炭化物集中1箇所、単独出土の壺1箇所の遺構が確認されています。中でも注目されるのは、墨書土器の豊富さとその内容で、第9号竪穴住居址から確認された「山梨東郡玉井郷」を表していると思われる「玉井」と書かれた墨書の他、「玉子」「山中」「金」など判読不明・破片資料・線刻土器などを合わせて約222点が検出されるなど大きな成果をあげています。

今回は、県立高等支援学校桃花台学園（以下、桃花台学園）の浄化槽が現在、道路を挟んだ西側に設置されており、この浄化槽をグラウンド南西隅の倉庫前に場所を移し、浸透柵を付属して埋設するため、発掘調査が行われました。



「玉井」の墨書土器

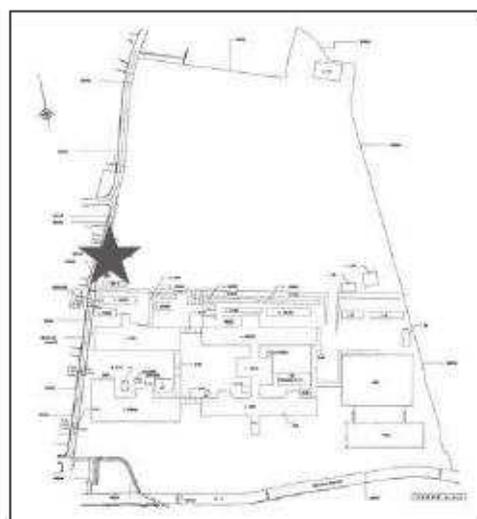


竪穴住居跡

調査は、78㎡と狭い調査区内であったことから、遺構・遺物の検出は少なかったものの平安期の竪穴式住居跡1軒、土坑・柱穴10基を確認しました。竪穴住居跡は、南北方向に2.6mの規模と約15cmの深度を有するもので、竈は検出できませんでしたが若干の焼土が観察できました。遺物は、平安期と見て取れる土師器の小破片が出土しています。また、土坑と柱穴はそれぞれ直径30～50cm、深度約30～40cmの規模を有するものですが、これらの遺構からは、時代を決定付けるような遺物の出土はありませんでした。しかし、狐原遺跡の埋蔵文化財包蔵地内であり、調査区西側において平安期の竪穴式住居跡の一部や土坑・柱穴が確認されたことにより、狭い範囲でありながら遺構・遺物が検出されたことは当地域の歴史を考究するうえで貴重な発見であったと言えます。

調査は、78㎡と狭い調査区内であったことから、遺構・遺物の検出は少なかったものの平安期の竪穴式住居跡1軒、土坑・柱穴10基を確認しました。竪穴住居跡は、南北方向に2.6mの規模と約15cmの深度を有するもので、竈は検出できませんでしたが若干の焼土が観察できました。遺物は、平安期と見て取れる土師器の小破片が出土しています。また、土坑と柱穴はそれぞれ直径

30～50cm、深



平成29年度調査地点

## 序 文

本書は、2018（平成29）年度に、県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴い発掘調査を実施した狐原遺跡の調査報告書です。

狐原遺跡は、1994（平成6）年度に、旧県立山梨園芸高等学校の農耕用車教習所建設事業に伴い、当センターで発掘調査を実施しています。

この遺跡は、金川左岸の扇状地上にあり、東西200m、南北300mの範囲が周知の埋蔵文化財包蔵地として周知され、その内8,000㎡程を過去に発掘調査しました。その結果、平安時代の住居15軒、土坑25基、墓壙などを調査し、特に「玉井」の墨書土器は、古代の山梨東郡玉井郷を考えるうえで貴重な考古資料として、現在も活用されています。

今回の発掘調査は、78㎡と狭小な範囲でしたが、平安時代の住居跡の一部や土坑が発見され、土器や金属製品も出土しています。

その結果、小さな調査面積であっても、狐原遺跡の範囲が校舎のある南側まで広がっていることが把握され、平安時代の大きな遺跡であることが改めて確認できたことは、今後の調査研究や埋蔵文化財保護にとって大きな意味を持つものであります。

また、甲斐国分寺・国分尼寺を核に、金川扇状地に展開する奈良・平安時代の遺跡が高密度に分布する地域における調査成果が充実することは、古代甲斐国の成立や発展を学術的に解明する手掛かりにもなります。

今回の事業により狐原遺跡の一部は壊されてしまいましたが、本報告によりその存在は永久に記録され、出土品は広く活用することができるようになります。

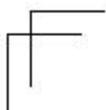
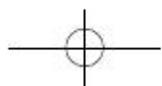
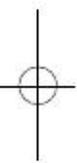
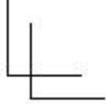
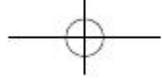
本書が、学術的な域を超えて、学校教育や地域の魅力の再発見や活性化の素材として多くの方々にご活用いただければ幸いです。

最後に、調査にあたりご指導、ご協力頂きました関係者、関係機関に厚くお礼申し上げます。

2019年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所 長 馬 場 博 樹

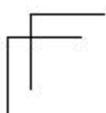
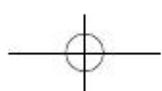
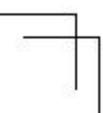
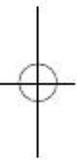
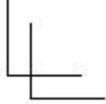
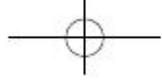


## 例言

- 1 本書は山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う狐原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴い、山梨県教育庁学術文化財課が同学校施設課から委託を受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 遺跡所在 山梨県笛吹市石和町中川1400地内
- 4 調査主体 山梨県教育委員会  
調査体制 山梨県埋蔵文化財センター  
発掘調査は、主幹・文化財主事 吉岡弘樹、臨時職員 高左右裕が行った。整理作業は、吉岡、非常勤嘱託職員 長田隆志が行った。
- 5 本書の原稿執筆は、序文を副主幹・文化財主事 宮里学が、あらままと、第1章を長田、第2章遺跡の位置と環境を文化財主事 岩永祐貴が、第3章の遺構・遺物については高右左が執筆し、それ以外と編集を吉岡・主任・文化財主事 御山亮済が行った。現場の写真撮影は、吉岡・高左右が、遺物の撮影は吉岡・長田が行った。
- 6 発掘調査は平成30年1月30日から2月27日まで行った。
- 7 整理作業は、平成30年6月1日から6月29日まで基礎的整理作業および本格的整理作業を山梨県埋蔵文化財センターで行った。
- 8 本書にかかる出土品および記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータなどは、一括して埋蔵文化財センターで保管してある。
- 9 発掘調査に係る調整機関は、山梨県教育委員会学術文化財課でおこない、担当は主任・文化財主事 久保田健太郎があたった。
- 10 発掘調査の基準となったグリッド杭打ち・基準標高測量は(株)テクノプランニング甲信支店に委託した。
- 11 発掘調査・報告書作成に当たり、以下の方にご教示・ご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。(敬省略)  
笛吹市教育委員会 有限会社タナカ設備

## 凡例

- 遺跡の範囲図(路線図)は任意縮尺  
遺構全体図 1/80  
遺構実測図の縮尺 住居1/40、土坑等1/40  
遺物実測図の縮尺は1/3・1/2  
方位や標高は、図版内に記載している



## 目次

巻頭写真図版

あらまし

序文

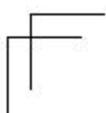
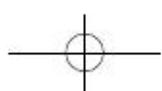
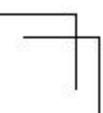
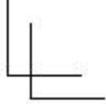
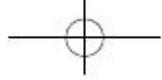
例言・凡例

目次

第1章	調査の経過	1
第1節	調査に至る経過	1
第2節	調査の目的と課題	2
第3節	発掘作業の経過	2
第4節	整理等作業の経過	2
第2章	遺跡の位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	調査の方法と成果	7
第1節	調査の方法	7
第2節	層序	7
第4章	遺構と遺物	8
第1節	遺構	8
第2節	遺物	9
第5章	まとめ	10

## 図版・表・写真目次

遺構図版	1 狐原遺跡周辺の遺跡
	2 調査地位置図
	3 土層断面図
	4 全体図
	5 遺構平・断面図 1
	6 遺構平・断面図 2
	7 出土遺物
写真図版	1 第5～8層 遺構確認面
	2 第9層 遺構確認面
	3 写真図版 1
	4 写真図版 2
	5 写真図版 3
	6 写真図版 4
	7 写真図版 5
表	1 狐原遺跡周辺の遺跡一覧



# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

### 1) 調査の原因

周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡は、平成6年に旧県立山梨園芸高校の農耕用車教習所建設工事により約8,000㎡の広域な発掘調査が行われ、平安時代の集落跡が検出されると共に400点を超す大量の墨書土器が出土するなどの成果をあげている。

県立高等支援学校桃花台学園（以下、桃花台学園）の浄化槽は、現在、道路を挟んだ西側に設置されており、この浄化槽をグラウンド内南西隅の倉庫前に場所を移し、浸透柵を付属して埋設する予定である。埋設位置は周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡に含まれており、掘削深度はGL-3.2m以上に達することから、当該地において埋蔵文化財が確認される可能性が考えられる。よって、試掘調査等の埋蔵文化財保護の対応が必要となるため、平成29年11月8・9日の2日間で試掘調査を行った。その結果、埋蔵文化財が確認されたため、平成30年1月22日に桃花台学園・学校施設課・学術文化財課・埋文センターで本調査の実施について事前協議を行い、平成30年1月29日から2月28日までの約1ヶ月間の予定で発掘調査を行うこととなった。

平成29年11月30日付けで高等支援学校桃花台学園浄化槽改修事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書が学校施設課長と県教委学術文化財課長の間で覚書を締結し、平成30年3月6日付けで発掘届けを提出した。調査期間は表土剥ぎと、埋め戻し・整地作業を含め平成30年1月30日～2月27日である。

#### ○協議・打ち合わせ等

[平成29年度]

- ・平成30年1月22日 山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に係わる事前協議
- ・平成30年2月5日 県立桃花台学園浄化槽設置工事に伴う狐原遺跡の埋蔵文化財発掘調査の機材搬入時におけるグラウンドの通過方法についての事前協議

#### ○調査に係る事務手続き

文化財保護法に基づく通知や発掘調査成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。

[平成29年度]

- ・平成29年11月30日付で、山梨県教育委員会学校施設課長と山梨県教育委員会学術文化財課長とで高等支援学校桃花台学園浄化槽改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する覚書を締結〔教学文第2590号：桃花台学園浄化槽改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書締結について〕
- ・平成30年2月7日 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告を山梨県教育委員会教育長および笛吹市教育委員会教育長へ提出〔教埋文第681号：埋蔵文化財発掘調査の実施について（狐原遺跡）〕
- ・平成30年3月6日 文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ依頼〔教埋文第735号：埋蔵文化財の発見について（山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事）〕
- ・平成30年3月8日 発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出〔教埋文第744号：埋蔵文化財発掘調査の終了について（狐原遺跡）〕
- ・平成30年3月23日 実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出〔教埋文第767号：実績報告書の提出について（狐原遺跡）〕

[平成30年度]

- ・平成30年4月27日付けで、山梨県教育委員会学校施設課長と山梨県教育委員会学術文化財課長とで高等支援学校桃花台学園浄化槽改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する覚書を締結〔教学文第421号：桃花台学園浄化槽改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書締結について（狐原遺跡）〕

## 第2節 調査の目的と課題

平成6年に旧県立園芸高校の農耕用車教習所建設工事により約8,000㎡の広域な発掘調査が行われ、平安時代の集落跡が検出された。また、平成29年11月の試掘調査でも平安時代の包含層から土坑や平安時代の土師器などが見つかったため、これら遺構・遺物を記録保存することを目的に発掘調査を行った。また、遺跡における生活や土地利用等の変遷過程を解明していくための資料として、遺構・遺物の分布をとらえていくことを課題とする。

## 第3節 発掘作業の経過

平成30年2月5日から表土剥ぎを開始し、平成30年2月7日付で法99条を届出した。調査では、78㎡と狭くかつ深度もGL-3.2mと深いため安全対策として法面に80%の勾配を付けて掘削をした。また、調査位置は桃花台学園グラウンドの南西隅に位置し、桃花台学園や笛吹高校の生徒がグラウンドを使用することなどからAバリケードを設置するなど安全確保についても十分な対策をした上で、人力による掘削・精査を行い、土層の堆積状況による遺構・遺物等の記録化を図った。また、外部委託による杭打ち（世界測地系座標による基準杭の設置）作業を調査開始日の2月7日に実施し、2月27日をもって調査を終了した。出土遺物の発見届けは、出土品の選別が終了した平成30年3月6日付で、終了報告を3月8日付で提出した。

（調査体制）

平成29年度（発掘調査）

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 中山誠二

次長 高野玄明

調査研究課長 今福利恵

担当者 調査研究課 調査第二班 主幹・文化財主事 吉岡弘樹 臨時職員 高左右裕

作業員（発掘調査）

鶴田晴夫 弘内茂明 米山文徳

平成30年度（基礎的の整理作業・本格的の整理作業）

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 馬場博樹

次長 高野玄明

調査研究課長 笠原みゆき

担当者 調査研究課 調査第一班 主幹・文化財主事 吉岡弘樹 主任・文化財主事 御山亮済

非常勤嘱託職員 長田隆志

調査第二班 副主幹・文化財主事 宮里学 文化財主事 岩永祐貴

臨時職員 高左右裕

作業員（基礎的の整理作業・本格的の整理作業）

梶原初美 平川涼子

## 第4節 整理等作業の経過

狐原遺跡の遺物出土量は、プラスチック収納箱にして1箱である。室内における図面整理・出土品の洗浄などの基礎的の整理作業や遺物の接合や実測作業等を中心とした本格的の整理作業を平成30年6月1日から開始した。作業内容は、遺物の水洗作業から始まり、注記、接合、実測、トレース、版組作業を実施し、併せて原稿執筆・編集作業を進め、報告書刊行をおこなった。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

狐原遺跡は、笛吹市石和町中川に位置し、笛吹川の支流である金川を起因とした扇状地の扇中央部にある。金川は甲府盆地の南縁を形成する御坂山地から北に向かって流れている。このほか金川扇状地周辺には、御坂山地から流れる大石川と御手洗川が扇状地を形成し、複合扇状地を作っている。

今回の調査地点は桃花台学園敷地内であり、周辺と比較すると微高地となっている。平成6年に行われた前回の調査において、河川氾濫の痕跡が確認されている。微高地を中心に集落が展開していた可能性もあるが、洪水等の自然災害から逃れることができた高い地点にのみ集落跡を確認できる。

### 第2節 歴史的環境

狐原遺跡がある笛吹市石和町から一宮町周辺は、古代を中心に遺跡が数多く分布している。本節では、古代を中心に主要な遺跡の概要について述べる。

旧石器時代から縄文時代にかけては、御坂山地と各河川から形成される扇状地の扇頂部に遺跡が多く分布する。特筆すべきは、京戸川扇状地に位置する釈迦堂遺跡群であり、甲府盆地を代表する縄文時代の集落遺跡である。

弥生時代の遺跡は少ないが、古墳時代に入ると四ツ塚古墳群(72)や姥塚古墳(23)等が築造され、遺跡数が徐々に増加していく。地方豪族の墳墓として築造された後期古墳が多く、金川右岸や京戸川扇状地等にも数多く古墳群が認められている。

奈良・平安時代になると、遺跡が濃密に分布する。地方豪族の墳墓が築造された古墳時代からの流れのなか、甲斐国分寺跡(98)・甲斐国分尼寺跡(96)が建立され、本地域は古代甲斐国の中心地域として発展した。

なお、本遺跡は大原遺跡(12)との関係が注目される。大原遺跡は「玉井郷長」と書かれた墨書土器が出土した著名な遺跡である。この墨書土器と遺跡の規模から、大原遺跡が古代甲斐国の玉井郷の所在地であることが確定した。大原遺跡から500m程しか離れていない本遺跡から、平成6年の調査時に「玉井」と書かれた墨書土器が出土しており、玉井郷と近い関係性にあったことが窺える。

#### 註

1) 遺跡地図は山梨県教育委員会が所有する情報を元に作成した。

#### 参考文献

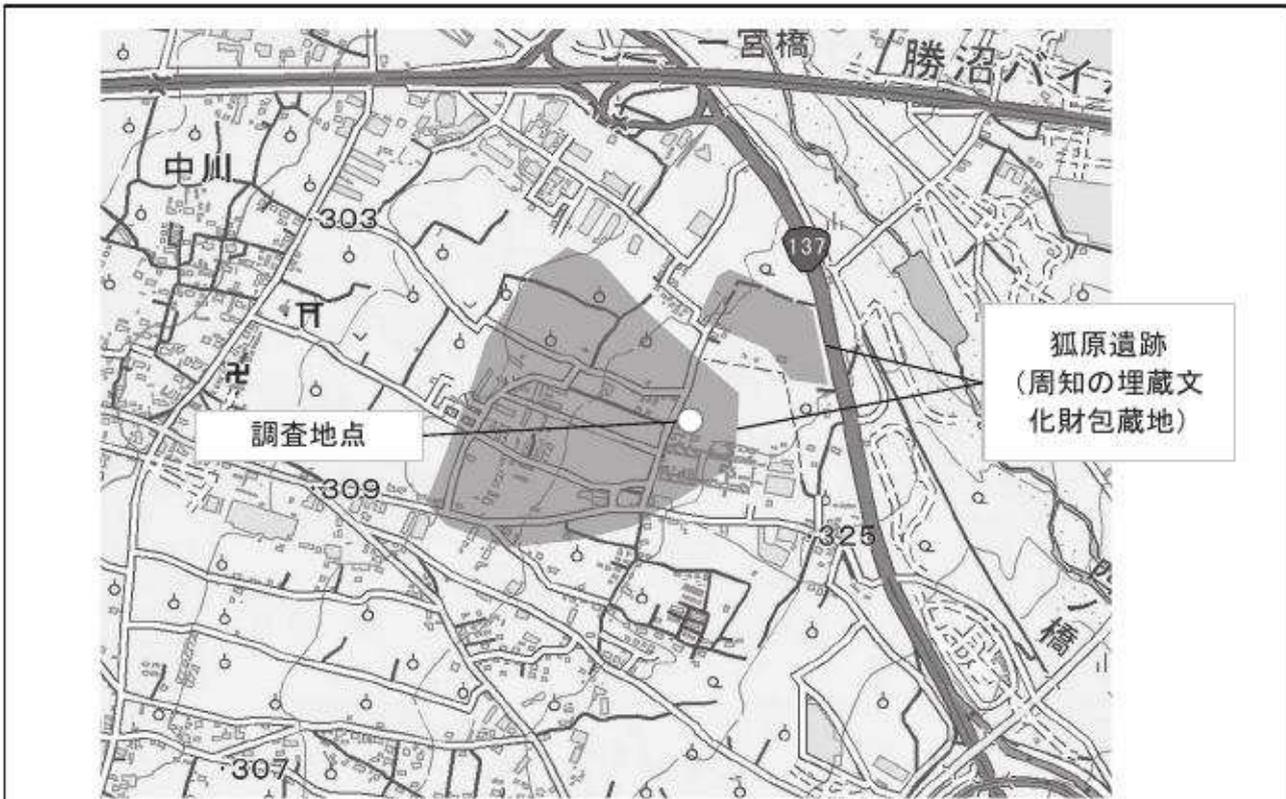
森原明廣・宮里学1996『狐原遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第120集  
山梨県立博物館2018『文字が語る古代甲斐国』



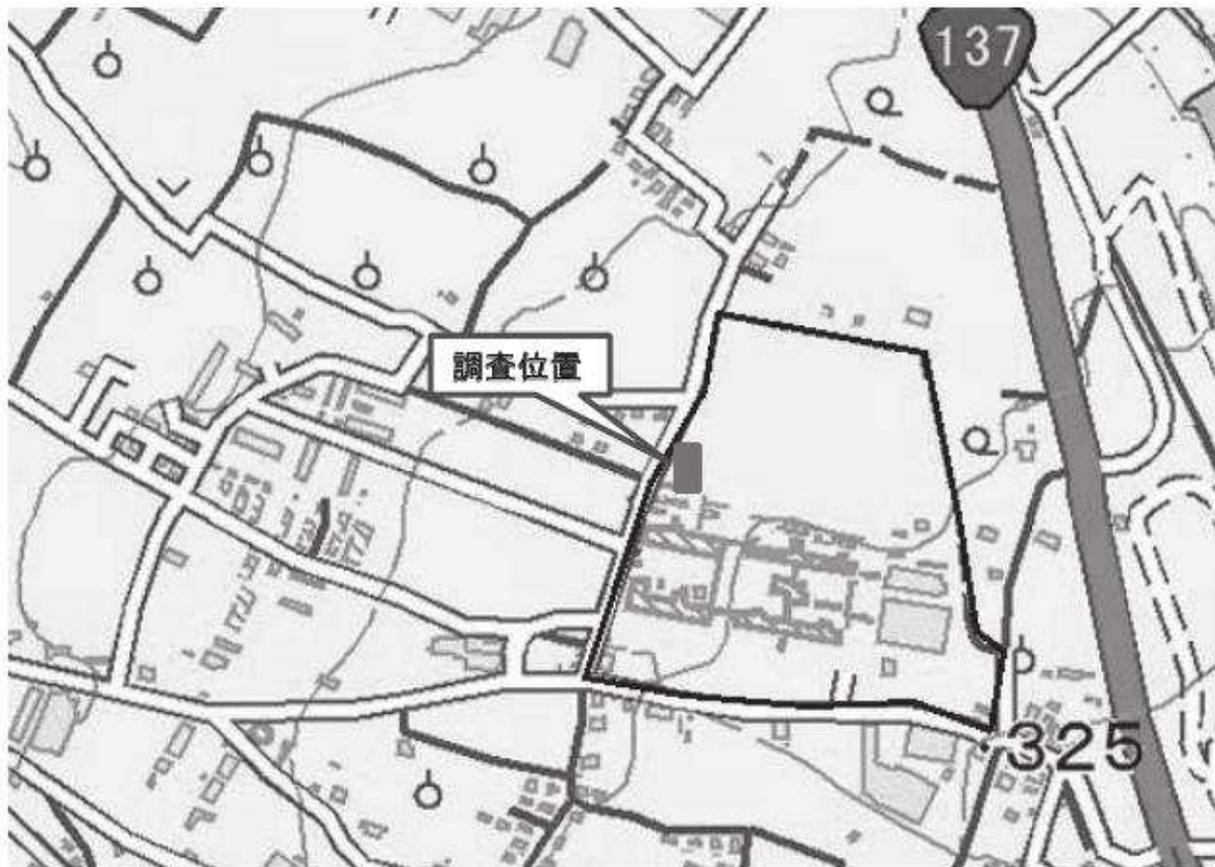
第1図 狐原遺跡周辺の遺跡

1	狐原遺跡	21	山王遺跡	41	東小山C遺跡	61	金駒塚古墳	81	南西田遺跡	101	甲斐国分尼寺跡南遺跡	121	中尾条里遺跡
2	半行寺遺跡	22	横畑遺跡	42	小山城跡	62	千休塚古墳	82	北腰巻遺跡	102	西ノ木神社遺跡	122	前河原遺跡
3	御神道遺跡	23	姥塚古墳	43	丸山遺跡	63	横塚B遺跡	83	坪井条里遺跡	103	車地藏遺跡	123	中尾条里亀沢遺跡
4	宮の前遺跡	24	天神前遺跡	44	東小山B遺跡	64	横田遺跡	84	後田遺跡	104	巻ノ木遺跡	124	小城遺跡
5	不動河原遺跡	25	龍舞場遺跡	45	東小山A遺跡	65	宝福寺跡	85	瑞蓮寺	105	金山遺跡	125	伝軍団跡
6	一丁田遺跡	26	扇田遺跡	46	下原遺跡	66	楽音寺遺跡・古墳群	86	金田遺跡	106	北前田遺跡	126	小城北遺跡
7	中荒井遺跡	27	後畑遺跡	47	道中級遺跡	67	木地藏遺跡	87	夕雨田遺跡	107	天神原遺跡	127	金塚遺跡
8	中川松本遺跡	28	飯柄田遺跡	48	赤根田遺跡	68	笠木地藏遺跡	88	橋立遺跡	108	惣田屋敷	128	松畑西遺跡
9	赤井遺跡	29	中通遺跡	49	柿ノ木遺跡	69	豆塚遺跡	89	鷲堂遺跡	109	北塚遺跡	129	松畑東遺跡
10	坪井遺跡	30	絵毛遺跡	50	橋詰遺跡	70	長田1号墳	90	鷲前原北遺跡	110	中新居遺跡	130	金山遺跡
11	宮の上遺跡	31	綿煎斗遺跡	51	御舞遺跡	71	澤久保遺跡	91	鷲前原遺跡・土塁	111	北中原遺跡	131	御殿堂遺跡
12	大原遺跡	32	宮ノ後遺跡	52	カニ田遺跡	72	四ツ塚古墳群	92	甲斐国分尼寺跡北遺跡	112	石動遺跡	132	稲屋町遺跡
13	御堂遺跡	33	大橋遺跡	53	北川遺跡	73	豆塚北遺跡	93	桜畑遺跡	113	両宮氏屋敷		
14	東田遺跡	34	川後塚遺跡	54	午新田遺跡	74	西林遺跡	94	北大内遺跡	114	慈眼寺西古墳		
15	下前田遺跡	35	久保A遺跡	55	田代遺跡	75	茶かん遺跡	95	矢倉遺跡	115	慈眼寺北遺跡		
16	小石原遺跡	36	久保B遺跡	56	北原遺跡	76	西田町南遺跡	96	甲斐国分尼寺跡	116	車居遺跡		
17	溝中田遺跡	37	堀川遺跡	57	市六遺跡	77	西田町遺跡	97	松原遺跡	117	鞍掛遺跡		
18	出口遺跡	38	金地蔵遺跡	58	宮の前遺跡	78	満願寺遺跡	98	甲斐国分寺跡	118	清水遺跡		
19	地蔵免遺跡	39	御崎林遺跡	59	彌智屋古墳	79	東前田遺跡	99	甲斐国分寺西遺跡	119	本都塚条里遺跡		
20	赤目田遺跡	40	高家・御崎遺跡	60	伊勢塚古墳	80	西前田遺跡	100	浪人屋敷	120	今宮遺跡		

第1表 狐原遺跡周辺の遺跡一覧



発掘調査地点位置図



調査位置図

第2図 調査地位置図

## 第3章 調査の方法と成果

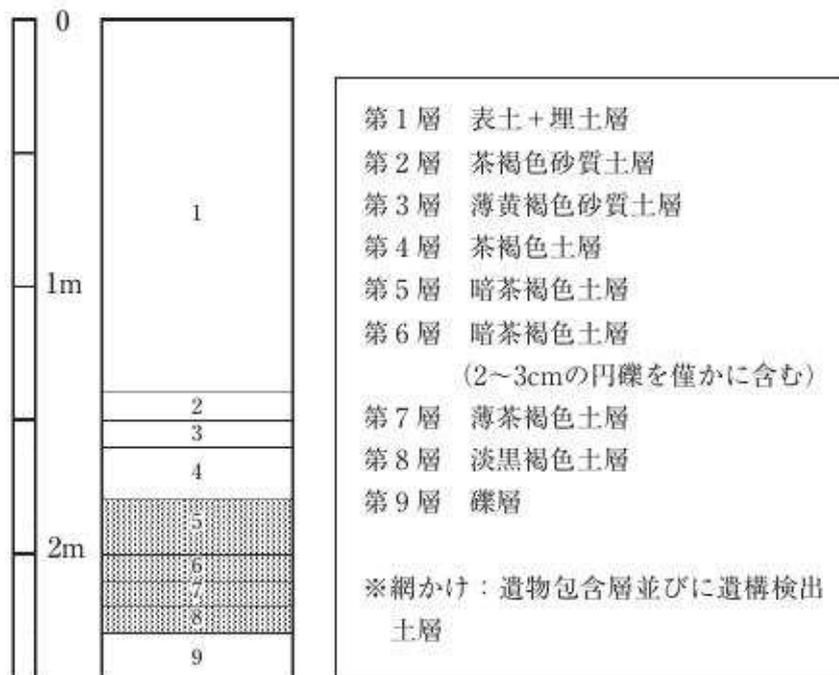
### 第1節 調査の方法

今回の事業は、浄化槽等の敷設に伴うものであることから、高深度の掘削が予定されているため、法面に80%の安全勾配を設けるよう調査区を設定し、ブレーカーによってコンクリート基礎の破碎を行った後に試掘調査で得られたデータと平成8年度に調査された成果を基に、遺構確認面まで重機によって表土を剥ぎ、人力による掘削・遺構の精査を行った。発見された遺構や遺物・土層の堆積状況は、平板および手実測による図化(断面図や遺物・遺構の微細図)と、フィルムカメラとデジタルカメラでの写真撮影等で記録保存をした。

### 第2節 層序

表土+埋め土層は、グラウンド下約1.5m厚の深度で検出され、尚且つ、その中には設置時期不明のコンクリート基礎塊が埋められていた。その下、2~4層では砂質土を主体とした攪乱をやや含む層位が確認された。さらに、下層に行くに従って5~8層が検出され、ここから平安時代の住居跡や土坑・柱穴などの遺構や土器類が検出されている。

また、その下層には人頭大以上の円礫をも含む砂礫層があり、これが平成6年度調査時と同層の最下層である。



第3図 土層断面図



第5~8層 遺構確認面



第9層 遺構確認面

## 第4章 遺構と遺物

### 第1節 遺構

検出した遺構は、小竪穴状遺構以外は第4層を掘り込んでいる。第4層は人頭大の礫が散乱しており、その間を掘り込んで各遺構が確認された。また、調査区南側の一部は攪乱により破壊されており、確認された遺構や遺物は調査区北半および南西側で見つかった。

#### 1) 竪穴住居跡

##### 1号竪穴住居跡

〔位置〕調査区南西側のC-2区グリッドに位置する。

〔形状・規模〕南北2.6m、東西不明。調査区南西隅で調査区西壁にかかっていたため全体はわからないが、形状は隅丸方形と思われる。長軸は南北方向から少し東に振れる。竪穴の深さは遺構確認面から40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔検出状況〕遺物包含層である暗褐色土層を掘り込んでおり、覆土の上層は硬く締まっており、周囲には礫が散乱していた。床面は締まっておらず、本建物跡に伴う柱穴やカマドなどは確認されなかった。しかし、建物の埋土の中から焼土が見られた。

〔遺物出土状況〕遺物は非常に少なく、竪穴住居跡全体から出土した。ほとんどの遺物が土師器の小破片であったが、そのほか須恵器が1片(1)出土している。土師器の中では甕の胴部片(11)が出土した。

〔時期〕平安時代。

#### 2) 土坑

##### 1号土坑

〔位置〕調査区北東側のB-3区グリッドに位置する。

〔形状・規模〕平面は長径72cmの楕円形で、断面形状は壁面がほぼ垂直に立ち上がり箱型である。

〔検出状況〕調査区中央東の礫が集中する地点から検出した。埋土は拳大の礫が混じる黒褐色土であり、遺構確認面から底面まで大量の礫で埋め尽くされている。遺物は出土しなかった。そのため、時代は判断できないが、平安時代の遺構と考えられる竪穴住居跡と同様の層位から検出しているため、平安時代のものと想定される。

##### 2号土坑

〔位置〕調査区北東側のB-3区グリッドに位置する。

〔形状・規模〕平面は直径47cmの円形で、断面形状は壁面が緩やかに立ち上がるU型である。

〔検出状況〕1号土坑からピット群を挟んだ北に掘られ、1号土坑同様に礫混じりの黒褐色土である。西に6号ピットが重なり合い検出された。しかし、6号ピットとの間には礫が多数いりまじり、切り合い関係は不明である。底面には1号土坑同様に大量の礫で埋め尽くされている。出土遺物はないが4層を掘り込んでいることから、平安時代のものと想定される。

#### 3) ピット

1号ピットから10号ピットまでが検出した。ピットは大きく二地点にまとまっており、1号竪穴住居跡の北に1,2,10号ピット、1号土坑の北に3~9号ピットが集中して確認された。中でも4号ピットと5号ピット、7号ピットから9号ピットは東西方向に並んで検出されるといった規則的な配列が見られたが、遺構の用途は判断できなかった。また、遺物も出土しなかった。

#### 4) 小竪穴状遺構

[位置] 調査区北西側のB-2区、B-3区グリッドにて検出された。

[形状・規模] 南北156cm、東西不明。遺構の西側半分はトレンチの端で切られてしまっているため全体はわからないが、隅丸長方形と思われる。遺構の深さは約25cmであり、底面は10～20cmほどの大量の礫で埋め尽くされている。

[検出状況] 第3層を掘り込んでおり、他の遺構よりも少し高い位置に掘られている。埋土も締まりが弱く人頭大の礫が大量に混じるなど他の遺構の埋土とは違った様相であった。また遺物は検出されなかったため、時代は不明であり、柱穴などの付属する遺構が周囲で見られなかった。

## 第2節 遺物

### 1) 遺構外出土遺物

遺構外からも平安時代の遺物が出土している。調査区南側では攪乱によって大きく削平されているため遺物がほとんど出土しなかったが、調査区北側では包含層が堆積しており、遺物も大量に出土した。出土した遺物は小破片のものがほとんどであったので、墨書が見られるものや調整、器形がある程度把握できるものについて図示した。

墨書土器は表土から出土した1点(9)のみで、遺構に伴うものはない。9は内面の底部に墨書されているのがわかるが、欠けてしまっているため文字を判読することはできない。

墨書土器の他には1号住居跡の近辺から柱状高台が出土した。10は柱状高台付皿であり、坏部の立ち上がりが浅く高台部が垂直に立ち上がる。平安末の12世紀ごろのものと思われる。包含層中からは土師器片(8～10、12～14)、須恵器(2～7)、陶器(15・16)が検出され、概ね奈良～平安時代のものと思われる。また、表土からは磁器の高台片(17)および頭巻き型と思われる鉄釘一点(18)が出土した。

## 第5章 まとめ

本調査地点では78㎡という狭い範囲にも関わらず竪穴式住居跡1軒と土坑2基・柱穴10基および小竪穴遺構1基が検出された。この内、住居跡と小竪穴状遺構については僅かに端部が検出されたのみで、いずれも、金川の氾濫により流されてきた円礫が充填されてしまっていたため依存状況は良好とは言えず、その全容を明らかにすることはできなかった。また、遺構からの出土遺物も図示し得る資料は少なく遺構外からの18点に留まっている。

まず、ここでは、時代が判別できる遺物について個々にみていきたい。

No5の坏は体部に斜方向のヘラ削りが観察でき内部の暗文が消えるタイプのもので、製作年代は甲斐型編年に照らし合わせるとX～XI期の10世紀頃に比定されると考えられるものである。No9の坏片は時代の判別はできないものの底部に墨書がみられる。No10の柱状高台付皿は、坏部の立ち上がりが浅く高台部が垂直に立ち上がりを持つ甲斐型編年X期(10世紀)ごろの所産と思われる。No14のかわらけは小破片のため、時代決定が難しく中世まで下るものではなく奈良・平安時代としか言えない。

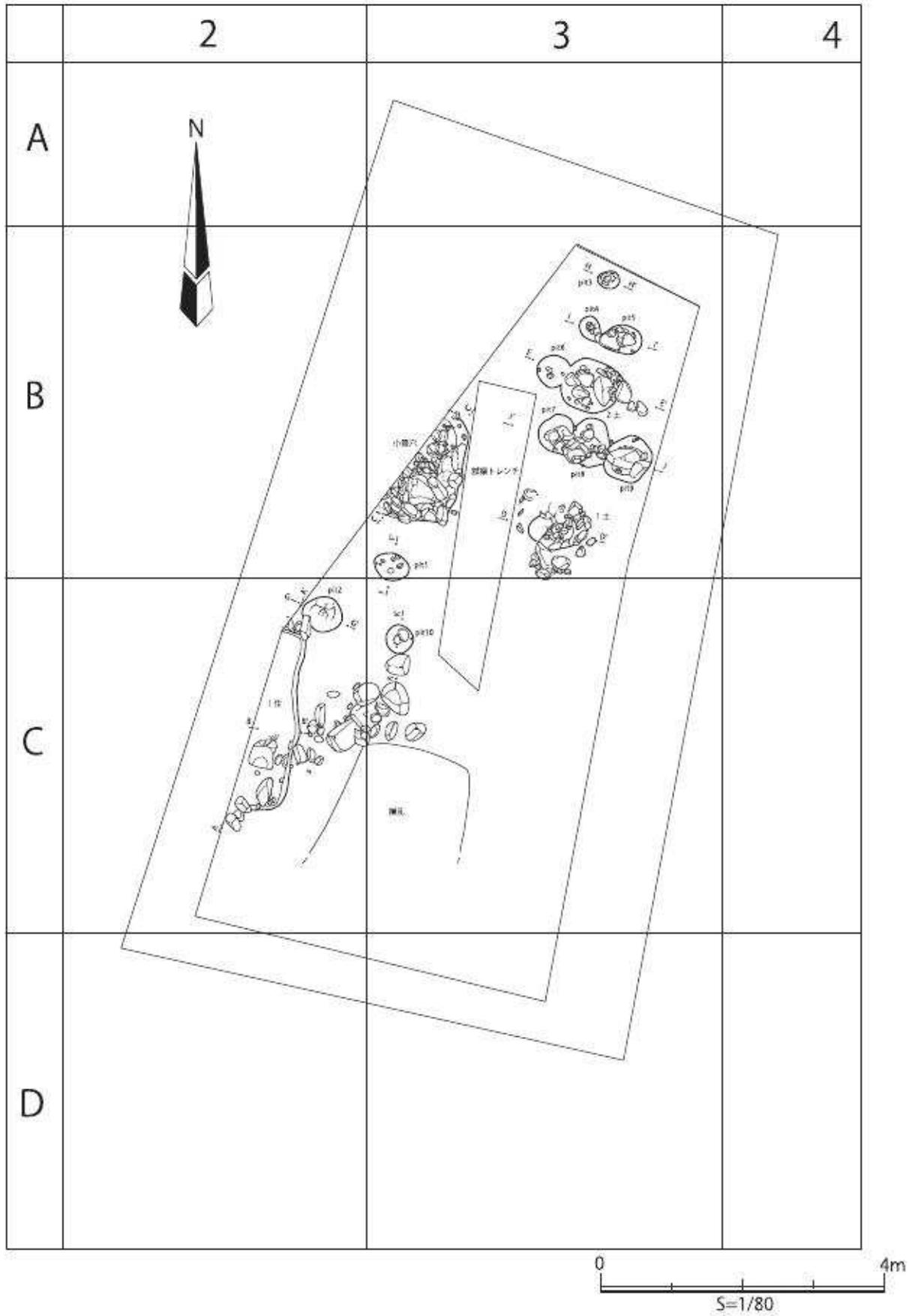
No18の釘は長さ10.4cmを測り先端部が欠けている。断面形は四角で頭部は頭巻き型の形状をとる。時代は江戸期と推される。

本遺跡を考える上で周知の埋蔵文化財包蔵地狐原遺跡内での過去の調査や隣接する大原遺跡や金川の対岸にある甲斐国分寺跡・国分尼寺跡などの重要遺跡を見過ごすことはできない。大原遺跡においては、5世紀から11世紀にわたり集落の存在が確認されている。また、周囲にある茶かん遺跡では9～10世紀、狐原遺跡と同一の包蔵地範囲内の旧県立山梨園芸高等学校農耕車教習所地点では9～10世紀を中心とした集落が営まれている。また、1991年の石和町教育委員会によって調査された地点の近接した位置にあり今回の調査地点と集落が接続する可能性を強めている。ここからは、10世紀から12世紀にかけての住居跡などの遺構群が発見されている。これは、前述した大原遺跡とともに山梨郡玉井郷の存在していた可能性を強めていると言えるものである。さらに、氾濫の激しかった金川の近くにありがた集落の形成が続くのは微高地で安定した条件があったものと思われよう。

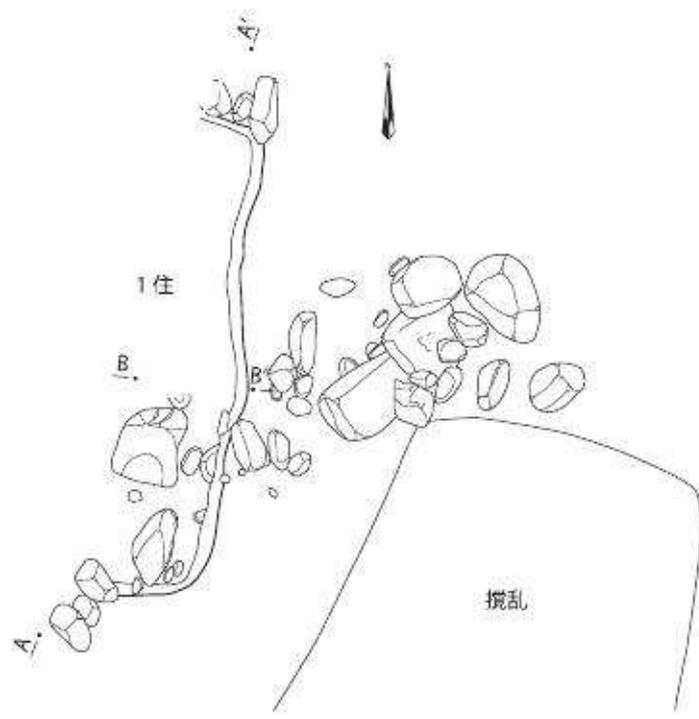
### 参考文献

- 坂本美夫 末木健 堀内真 1983 「甲斐地域」『神奈川考古14 シンポジウム 奈良・平安時代土器の諸問題』
- 一宮町教育委員会 1990 「大原遺跡発掘調査概報」
- 石和町教育委員会 1991 「茶かん遺跡」
- 石和町教育委員会 1991 「狐原遺跡」
- 石和町教育委員会 1992 「御幸道遺跡」
- 山梨県教育委員会 1996 「狐原遺跡」

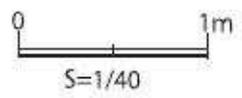
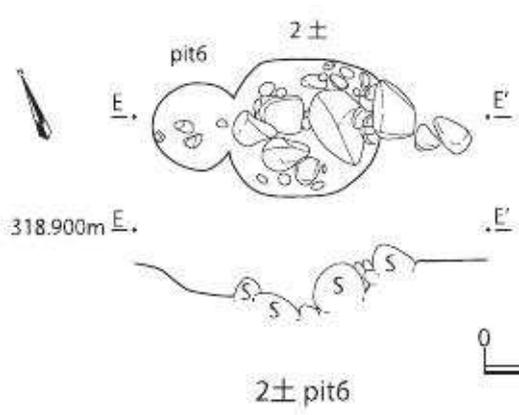
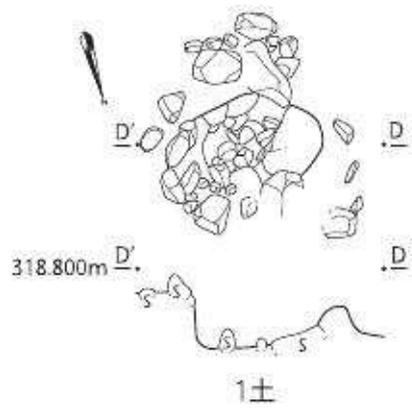
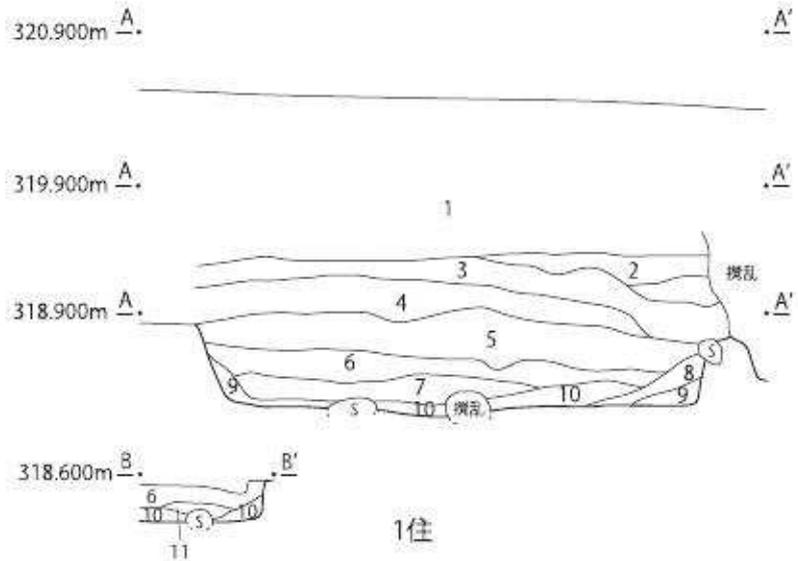
# 遺構・遺物図版



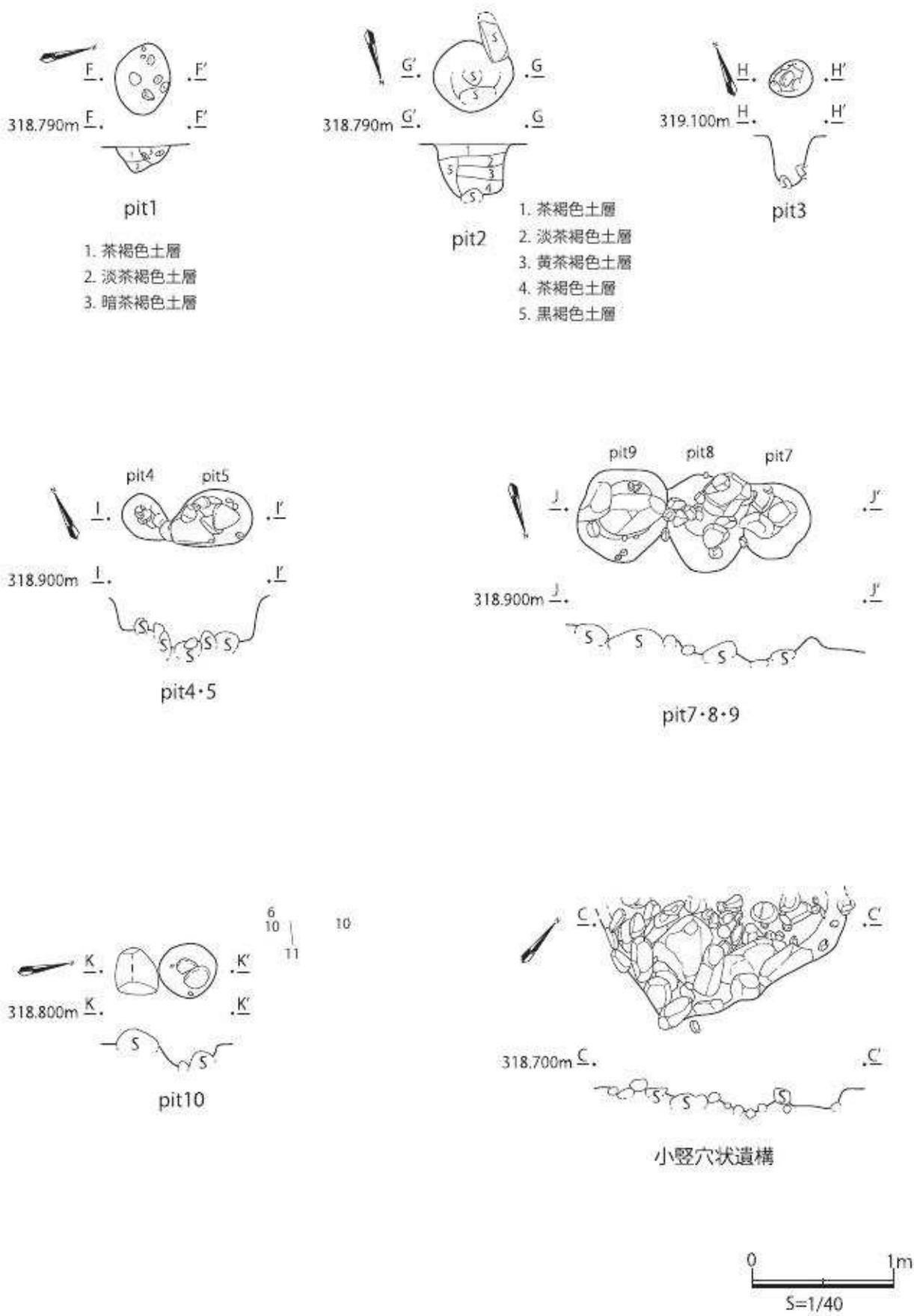
第4図 全体図



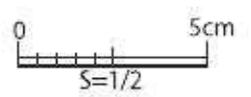
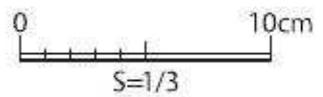
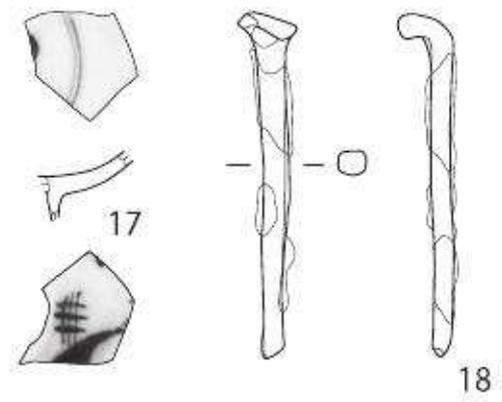
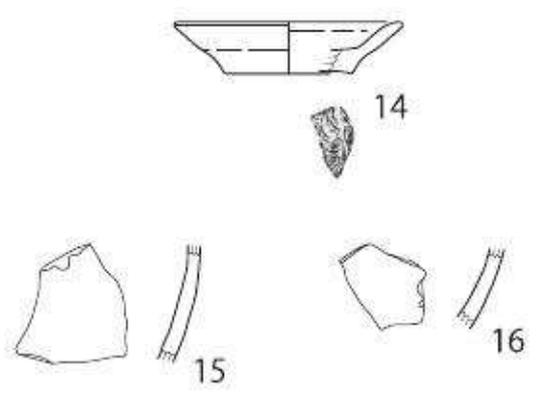
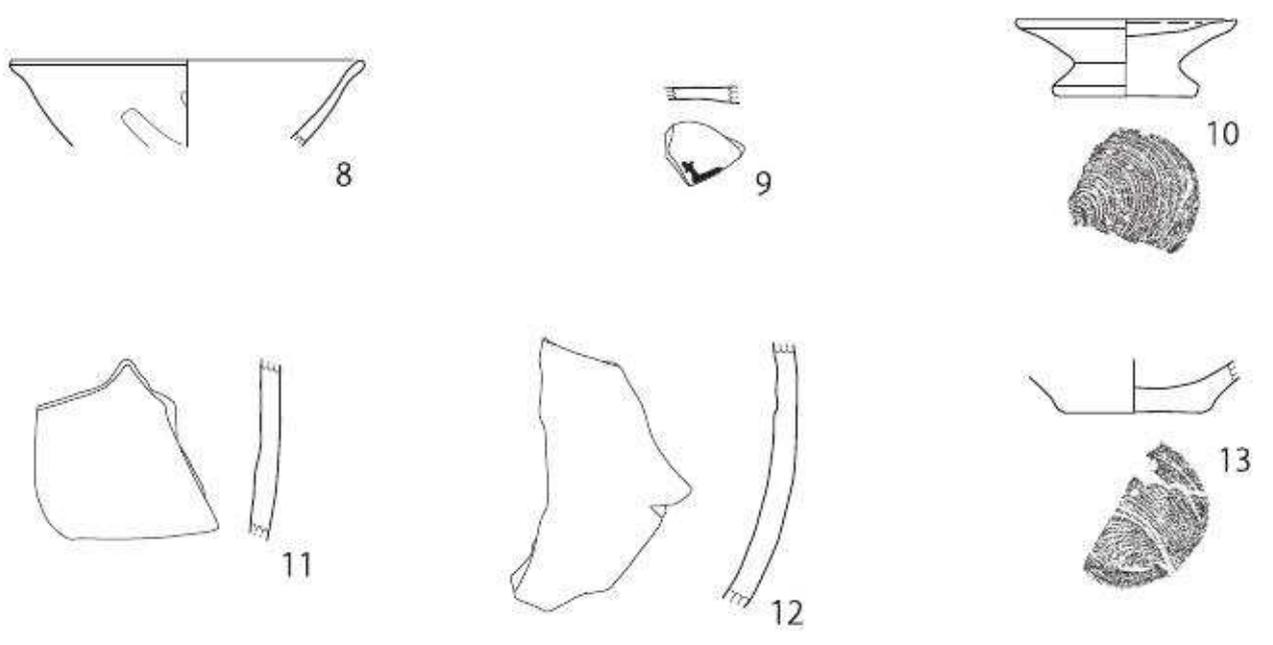
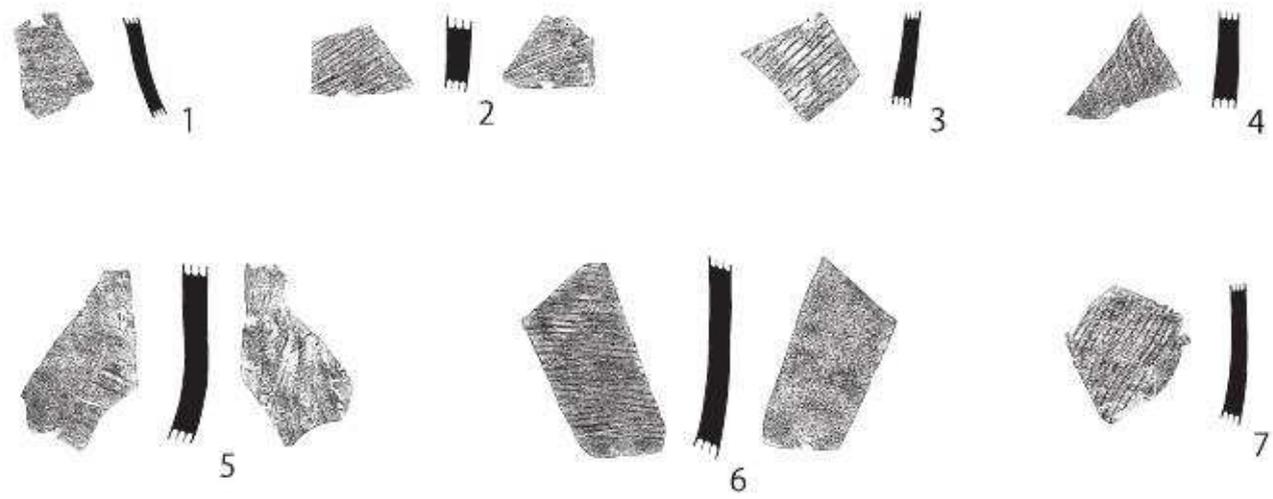
- 1. 表土+埋土
- 2. 茶褐色砂質土層
- 3. 薄黄褐色砂質土層
- 4. 黄褐色土層
- 5. 暗茶褐色土層
- 6. 暗茶褐色土層
- 7. 淡茶褐色土層
- 8. 薄黑褐色土層
- 9. 黑褐色土層
- 10. 淡黑褐色土層
- 11. 橙褐色土層  
(焼土混じり)



第5図 遺構平・断面図 1



第6圖 遺構平・断面圖 2



第7図 出土遺物

# 写真図版



調査前の状況



表土剥ぎの様子



ブレイカーによる基礎の取り壊し



重機 2 台による掘削ほか作業状況



発掘調査風景



1号住居跡検出状況

写真図版 2



1号住居跡セクション



1号住居跡完掘状況



1号住居跡完掘状況（上から）



1号土坑完掘状況



2号土坑完掘状況



2号ピット完掘状況



1号ピット完掘状況



3号ピット完掘状況



4・5号ピット完掘状況



7・8・9号ピット完掘状況



10号ピット完掘状況



小竪穴状遺構完掘状況と水管

写真図版 4



測量調査風景



重機による埋め戻し作業



整地作業



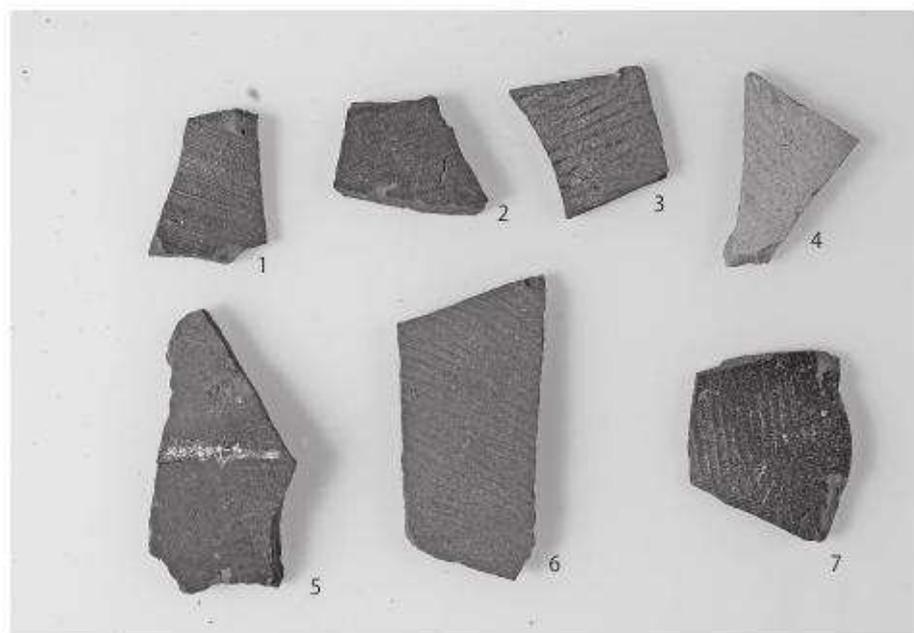
調査完了状況



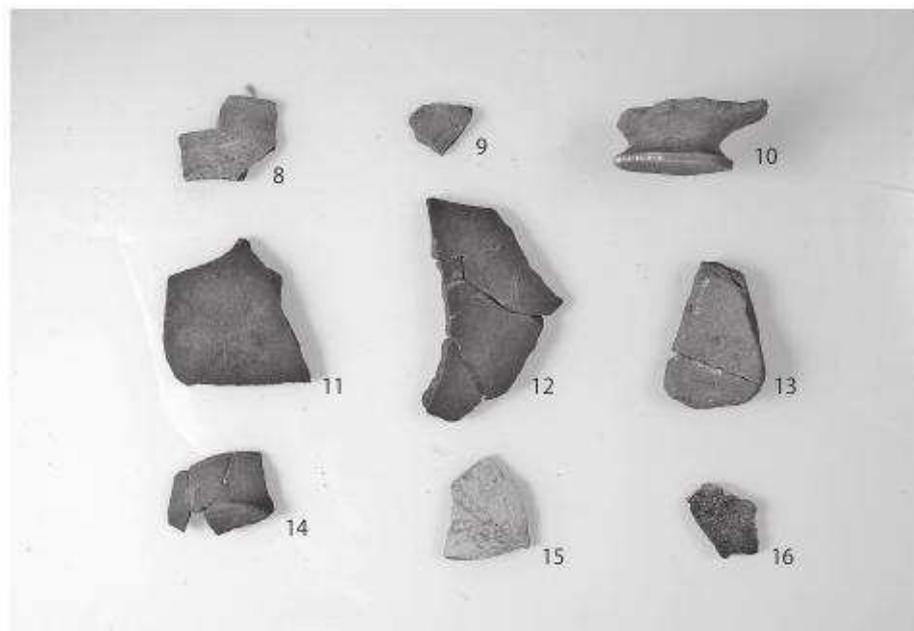
整理作業 1



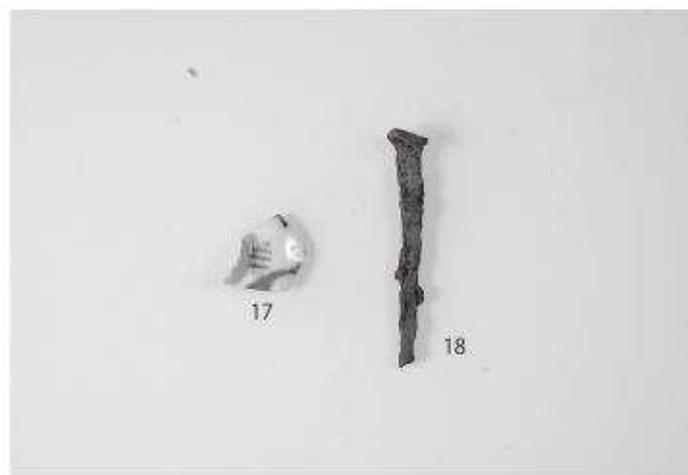
整理作業 2



出土遺物 1



出土遺物 2



出土遺物 3

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	きつねっばらいせき							
書名	狐原遺跡							
副題	山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第325集							
著者名	吉岡弘樹 宮里学 御山亮済 岩永祐貴 高左右裕 長田隆志							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根 923 電話 055-266-3016							
発行者機関	山梨県教育委員会							
発行年月日	2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯(新)	東経(新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
狐原遺跡 (きつねっばらいせき)	笛吹市石和町 中川 1400	19211		35° 38' 30"	138° 40' 03"	20180129 ~ 20180228	78㎡	学校建設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地 集落跡	平安	竪穴住居跡 1 軒、小竪穴状遺構 1 基、土坑・ピット 10 基	土師器・須恵器・陶磁器・鉄製品		狭い範囲での調査であったが、平安期の竪穴式住居跡の一部や土坑・柱穴が確認されたことは、当地域の歴史を考究するうえで貴重な発見となった。		
要約	<p>調査の結果、平安期の竪穴式住居跡 1 軒、土坑・柱穴 10 基などを確認した。</p> <p>竪穴住居跡は第 6 層中から確認され、南北方向に 2.6m の規模と約 15cm の深度を有するものである。竪は検出できなかったが若干の焼土が観察できた。遺物の出土状況は平安期と見て取れる土師器の小破片が出土している。また、竪穴式住居跡の北側に長さ 1.6m 程の小竪穴状遺構と推される遺構の一部が検出されている。覆土には大小の円礫が全体に充填されている状況から、遺構としての認定には、やや疑問が残るものである。その他、検出された遺構としては土坑と柱穴約 10 基があり、それぞれ直径 30~50cm、深度約 30~40cm の規模を有するものである。これらの遺構からは、時代を決定付ける遺物の出土は無かった。</p> <p>今回の調査は 78㎡と、狭い調査区を設定し掘削したことなどから、遺構・遺物の検出は少なかった。しかし、狐原遺跡の埋蔵文化財包蔵地の内側であり、調査区西側において平安期の竪穴式住居跡の一部や土坑・柱穴が確認されたことにより、狭い範囲でありながら遺構・遺物が検出されたことは当地域の歴史を考究する上で貴重な発見であったと言える。</p>							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 325 集

### 狐 原 遺 跡

山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う発掘調査報告書

発行年月 2019年(平成31年)3月29日

編 集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根 923

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882

発 行 山梨県教育委員会

印 刷 青柳印刷株式会社